

吐くといふ有様ゆかしいではありませんか。

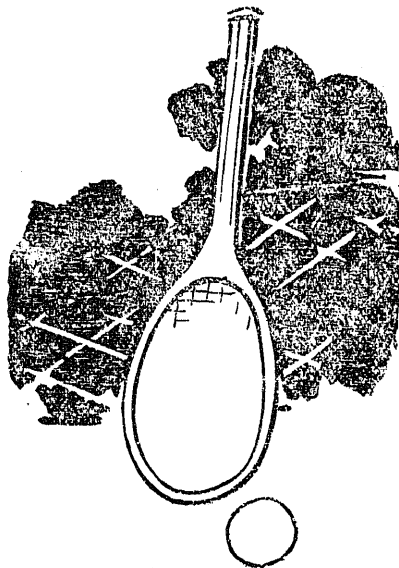
アメリカの教師は一週六十弗日本なら一ヶ月四百八十圓の割になります。日本の本の蝦茶様だちの、家に一つはとねごとまでし玉ふピアノは云ふまでもなく、その時々々の流行に遅れざる室内のかざりつけ、銀色金色燦然として油繪の美人艶色あでやかに石膏の彫像よばい答ふるやうです。されど吾は、泥炭の香鼻をつく津輕新田の一村、教育時論をよみて疎髻を捻じつゝあるわが友の生活、美ましくてたまらぬのであります。世にすねたるの言といふか。色をも香をも知る人ぞ知れ。

さういれ涙よする紋をば青柳の

影の糸して織るかぞ見る

(貫

之)



雪中の母とみどり兒 (譯篇)

口之津幼稚園 南 朝 參

雪中の母とみどり兒
つくばねおろしはだ寒く

暗に荒野の路たえぬ

母は彷徨ふみどり兒を

片手に引きつ片手には

睡れる稚兒を抱きしめ

道なき道をたどりゆく。

吹く風いよゝ寒くして

夜はいよゝ更け行きぬ

深雪の光は行手を照らせど

手足は凍ほり息もやたえん

「噫、神よ天と仰ぎて祈りけり

我身ひゆとも「噫神！」

いとしき稚兒を救ひませ。

母は綿襖を解き去れば

寒風しみて膚を裂き

稚兒温安かれとかきいだく

双手は雪になえはてぬ

頬の接吻涙散り

何時か雪路に屈折る、

夙旅人過ぎ行けば

雪に埋みし人や誰、

目は安らげく閉されて

冷たき頬は色あせぬ

胸の破衣を掻き去れば

嬉れしき稚兒の微笑は洩れぬ。

あゝたゞ天に

豊

洲

夜半のあらしに怒あり

あしたの霜につるぎあり

人のこゝろにわたみあり

あゝたゞ天に光あり。

おつるこのはに憂あり

匂ふすみれに限りあり

人のいのちに定めあり

あゝたゞ天にさかえあり。

登る朝日に曇りあり

かゞやく星にきはみあり

人のたもとなみだあり

あゝたゞ天にまことあり。

流るゝ水によどみあり

もゆる骸にあくまあり

人のおもひにけがれあり、
あゝたゞ天にのぞみあり。